

教師のバーンアウト傾向とソーシャルサポートとの関連 (2)

宮下 敏 恵
(上越教育大学)

目 的

学校現場において、精神性疾患による教職員の休職者数は、平成 17 年度は 4,178 人となり、過去最大の人数となっている(文部科学省,2006)。教師のメンタルヘルスに関する研究として、教師のバーンアウト傾向についての研究がみられる(八並・新井,1998 ; 伊藤,2000)。看護職などの結果と異なりバーンアウト尺度は 2 因子になるという結果が多くみられるが、校種においてその傾向が異なるとの指摘がみられる(田中・五十嵐・宮下,2002)。本研究では、小、中、高校それぞれにおいてバーンアウト尺度の因子構造が異なるのかを検討し、さらにバーンアウト傾向に及ぼす要因として、管理職、同僚それぞれからのソーシャルサポートの違いも検討することを目的とする。

方 法

調査対象者 小学校教員 128 名(男性 37 名、女性 91 名)、中学校教員 72 名(男性 37 名、女性 35 名)、高校教員 72 名(男性 52 名、女性 20 名)であった。

調査時期 2005 年 8 月～2006 年 8 月

質問紙の構成

(1)教師用バーンアウト尺度：MBI(Maslach & Jackson,1981)を学校現場に適応するように修正した五十嵐(2001)の尺度(23 項目、4 件法)を用いた。

(2)サポート尺度：管理職及び同僚からのサポートを測定する尺度として、小牧(1994)のソーシャルサポート尺度(14 項目、5 件法)を用いた。

手続き 研修会で配布及び知人を通じて調査協力をお願いし、配布、回収を行った。

結 果

(1)小学校教員の結果

①**バーンアウト尺度** 主因子法、バリマックス回転による因子分析を行ったところ、2 因子が抽出された。「情緒的消耗感」、「個人的達成感」と命名した。

②**管理職からのサポート尺度** 同様に因子分析を行ったところ 2 因子が抽出され、「道具的

サポート」、「情緒的サポート」と命名された。

③**同僚からのサポート尺度** 因子分析を行ったところ、2 因子が抽出され、「道具的サポート」、「情緒的サポート」と命名された。

(2)中学校教員の結果

①**バーンアウト尺度** 同様に因子分析を行った結果、3 因子が抽出された。「情緒的消耗感」、「個人的達成感」、「脱人格化」と命名した。

②**管理職からのサポート尺度** 因子分析を行ったところ、1 因子が抽出された。

③**同僚からのサポート尺度** 因子分析を行ったところ、3 因子が抽出された。「道具的サポート(知識・情報提供)」、「道具的サポート(仕事の援助)」、「情緒的サポート」と命名した。

(3)高校教員の結果

①**バーンアウト尺度**：因子分析を行ったところ、2 因子が抽出された。「情緒的消耗感」、「個人的達成感」と命名した。

②**管理職からのサポート尺度** 因子分析を行ったところ、1 因子が抽出された。

③**同僚からのサポート尺度** 因子分析を行ったところ、1 因子が抽出された。

(4)サポート尺度とバーンアウト尺度との関連

それぞれの学校種別に 3 尺度の関連を求めた(Table 1)。小学校、中学校においては管理職、同僚からのサポートはバーンアウト傾向を軽減するという結果が見られた。高校においては有意な差はみられなかった。

Table 1 中学校における
バーンアウト尺度とソーシャルサポート尺度の関連

	管理	同僚 1	同僚 2	同僚 3
情緒的消耗	-.260*	-.338**	-.338**	-.383**
個人的達成	.397**	-.002	-.031	.213
脱人格化	-.146	-.031	.042	-.262*

**<.01 *:<.05

考 察

田中・五十嵐・宮下(2002)と同様に中学校においてのみバーンアウト尺度は 3 因子構造を示しており、校種の違いを考慮に入れて検討する必要がある。管理職と同僚のサポートもそれぞれ異なる影響を及ぼしているといえるだろう。